

JASA国際委員会海外視察企画

フィリピン(セブ)視察レポート

国際委員会

廣田

2017/11

Contents

1. 目的・内容
2. フィリピンについて
3. 視察内容
5. 感想

1. 目的・内容

視察の目的

訪問国にて、同業の協会や企業、大学を訪問し内部の見学や現地の人とミーティングを行うことで、その国の特徴や将来性を学び、併せて現地の市場、インフラ、交通、生活を体感することで、ビジネス上のメリットやデメリットを知り、海外展開の目的を明確にする事や将来のビジネスプランに役立てるものとする。

視察先の選定

発展が予想され、注目を集めるフィリピン

世界最大級のBPO集積拠点であり、欧米諸国から注目のセブ島にて、ソフトウェア産業やPSIA(フィリピンソフトウェア産業協会)からのセミナー及び、現地大学への視察を企画した。

視察内容

10/17 出国 キックオフミーティング

10/18 AM:ブリーフィングセミナー PM:現地企業4社訪問

10/19 AM:現地大学2校訪問 PM:英語スクール訪問、フィリピン経済特区庁訪問

10/20 市内観光:CEBU IT PARK見学など

10/21 帰国

2. フィリピンについて

フィリピン

- 1 面積 299,404平方キロメートル(日本の約1.4倍)70位 セブ4422km² ほぼ山梨県
- 2 人口 10,981万人(2015年)12位 過去10年で15%増 セブ約330万人
- 3 首都 マニラ
- 4 民族 マレー系が主体。他に中国系, スペイン系及びこれらとの混血並びに少数民族がいる
- 5 言語 国語:フィリピン語(タガログ語)、公用語:英語 セブの方言セブアノ語、島々の共通語ビサヤ語
- 6 宗教 83%がカトリック, その他のキリスト教が10%, イスラム教 5%
- 7 総貿易額(2016年)
(1)輸出 574億ドル (2)輸入 841億ドル
- 8 主要貿易品目
(1)輸出 電子・電気機器(半導体が大半を占める), 輸送用機器等
(2)輸入 原料・中間財(化学製品等の半加工品が大部分), 資本財(通信機器, 電子機器等が大部分), 燃料(原油等), 消費財
- 9 主要貿易相手国・地域(2016年)
(1)輸出 日本(20.7%), 米国(15.4%), 香港(11.7%), 中国(11.0%), シンガポール(6.6%)
(2)輸入 中国(18.5%), 日本(11.8%), 米国(8.9%), タイ(8.0%), シンガポール(6.6%)
- 10 GDP 3,043億ドル(日本の約6%) → 過去10年で2倍
2,947ドル/1人(日本の約8%)
- 11 経済成長率 6.8%
- 12 失業率 5.7%(日本3.1%)
- 13 平均年齢 24歳(日本46歳)



3. 視察内容

10/17

キックオフミーティング（ゲスト：PSIA1名、現地企業INNOSOFT2名）
オリエンテーリング、自己紹介など



10/18 AM ブリーフィングセミナー（City Sports Club Cebu）

- PSIA(PHILIPPINE SOFTWARE INDUSTRY ASSOCIATION) 安倍 様
- GICフィリピン 中村 様
- VANANAZ SYSTEM INC 中尾 様
- IoT KRISTOFFER AMORA
EzTech Software & Consultancy Inc. REGULUS B.BERDIN 様
- Metrobank RONALD V.LAUDE 様



各講義より(資料は国際委員会HPのUP予定)

- PSIA: 160社で80%が300名以下 トップはアクセンチュア
- フィリピン: グローバルインハウス・アウトソーシング拠点
- IT技術者は約3年で離職するケースが多い
- 日本ではお客様「神様」、フィリピンでは「King」という違いがある
- EzTech社は組込企業で主にEU向けに回路設計を行っている。(このような企業もある)
- フィリピンでのIT業界とはITを活用した全ての業務の事をいう。
- とにかく若く(平均年齢24歳)教育がしっかりしている(識字率96.6%)



3. 視察内容

10/18 PM 企業訪問

Alliance Software (日系向けオフショア企業視察)

- 2000年セブで起業、日系向けオフショアNo1(セブ)
- コスト30~60%削減、360度評価を導入、利益は日本と同じくらい
- 近年日本以外も増加し日本向け60%、フィリピン、アメリカ、オーストラリア40%
- 金融や証券が多く現地でのビジネスが伸びている
- 現地在住の日本人SEを上手く組織に組み込んでいる



Revolution of Kitten, Inc. (Robot開発の日系オフショア開発拠点視察)

- 2015年起業のRobot専門のオフショア開発企業
- 親会社であるシャンティの社内公用語は英語
- コストではなく国内の人材不足、英語なので日本採用と変わらない
- 現地に日本人は駐在せず、Skypeでのコミュニケーション。
- 海外ビジネス展開を行う際に非常に参考になる

3. 視察内容

INNOSOFT SOLUTIONS (Localのシステム開発企業視察)

- ・約10年前に設立されたLocalのソフトウェア企業
- ・現在:スタッフ35名 社員20名(セールス10名) 15名のインターンやフリーランス
- ・フィリピンでは経験の無い新卒の採用はほとんど無い、そのためフリーランスやインターンの活用でPJを推進することが多いらしく、この会社は典型的な例。
実際、このような形態が多いらしく、会社として重要な役割はセールスのようである



VANANAZ SYSTEM INC. (日系Lean Start Up会社視察)

- ・1年半前に設立された日系ソフトウェア企業
- ・雑居ビルのスペースをオーストラリアのIT会社とシェアしている
- ・20代の若い日本人が経営
現在日本のEC等の仕事で経営しているが、将来大企業に育てる夢を持っている

3. 視察内容

10/19 AM 大学訪問

University of SAN CARLOS

大学全体では2～3万の学生

IT系の学費は年4万円位(企業や政府の援助有)

見せて頂いたのは水のポンプ制御(群馬大学等と共同研究している)

IT系の話はできなかったのと、研究室の見学もできなかった(と記憶している)



University of THE PHILIPPINE

IT Department

まだ卒業生は出ていない

2010年に1つの大学だったのが分割された

来年から国の認可大学になる

積極的にベンチャー企業と連携している

日本への編入は可能だが実績無し

こちらもIT系の話はできなかったのと、学部が休みのようで見学もできなかった



←連携企業研究室案内板

3. 視察内容

10/19 PM 企業訪問

ECC Foreign Language Institute of the PHILIPPINES

- ・現地講師によるオンライン教育 これはITの区分なので100%日本資本でも可能
- ・教室での教育は教育と区分されるので、日本資本は40%以下でないといけない
徹底した英語教育で朝から夜の自習(週末の発表有)まで英語漬け
- ・様々な要素(安全性、回線の安定性等)を比較し、セブに決めたとの事



3. 視察内容

10/20 CEBU IT PARK見学など(市内視察)

セブITパークは500m四方程度の区画にギッシリと高層ビルが建つ近代的な街並み。パークの入り口に構える大きなアーチをくぐるとスターバックスやマクドナルド、ケンタッキーなどのカフェやファーストフード店が並んでいて若い人たちが賑わっている。

各ビルともにビル入り口で厳しいセキュリティチェックがあり一般の人はビルの中に入ることができず、ビルのテナント名さえ分からない様子であった。

現地の方の話では欧米の外資系企業のコールセンターやバックオフィス業務のアウトソーシング業務で24時間稼働している街となっているとのこと。

パーク内は清潔で働いている人もカジュアルだが清潔感ある人たちでパーク外とは世界が違うようだった。



4. 感想

フィリピン(というよりセブ)について

街中(オフィス街)などは非常に安全で片言英語でも十分会話ができる。

人も比較的親切であり困ることは無い。

但し、露店の多い細い道はスリなどの危険性を感じる。

フィリピン住民の足はジープニー、走るコースは各々決まっているが、何処でも乗り降りできて非常に安い。

ジープニー:米軍のジープのエンジンを使って荷台に座席を付けたようなもので、狭くて膝が重なる事からそのように呼ばれているとの事



フィリピンのITについて

フィリピンでのIT関連とはITを使っているものも全て含むようで、規模感はつかみにくい。回線はまだまだ遅いが、インフラもかなり整備されており、フィリピンの学生も給与面でIT系に非常に魅力を感じているようである。

平均年齢も低いのでこれから伸びていくと思われる。

但し、今回訪問した企業の例からもアウトソーシング先としてのフィリピンは、目的を明確にする必要がある。

特に日本語を覚えようとする必要性を感じていないので、英語での海外向けの業務や現地でビジネス展開するなどの目的がないと、フィリピンでは難しいと思われる。

4. アンケート結果

全般的に参加者の満足度は高く概ね目的は達成できたと思います。

参加者満足度総平均点:4点(5点満点)

- ・現地企業のリアルな職場に触れることが出来た事は非常に有意義であった。
- ・非常に多くの刺激を頂き、自分の価値観に良い影響を与えた。
- ・現地人と連携していく上でのメリットデメリットのお話しが聞けたのが良かった。

など、良い評価が多かったが下記の反省点もあった

- ・事前に訪問先の情報が無かったため十分な質疑応答ができなかった。
- ・2日目の午後だけで4社訪問となり、余裕が無く内容が薄くなってしまった。
- ・大学のIT部門見学や学生とのディスカッションが出来なかった。
- ・訪問先のキャンセルなどがあり、ドタバタしてしまった。

視察に参加した若手からは、有意義だったので今後も継続してほしいという意見が複数ありました。

今後もJASA会員の皆様に満足して頂けるような海外視察ツアーを企画・実施しJASAの文化に育てていくと共に、若手に積極的に参加して頂き、将来協会内の横の繋がりが出来るような視察にしていきたいと思います。

END
